演題：「石油開発サラリーマンの転勤人生」
期日：令和４年９月２１日（水）　会場：五所川原工業・工科高等学校体育館
期日：令和４年９月２２日（木）　会場：五所川原商業高等学校体育館

【講演の記録】

私は石油資源開発の仕事をしています。私たちが生活で使用しているガソリンや灯油の原料である石油資源は自然界で数百万年、数千万年かけて地中で出来て、採掘が可能な場所まで上がってきた物を利用しています。

私は1960年生まれで五所川原市松島町の出身で高校まで五所川原に住んでいました。突然ですが、皆さんは今何か好きなことはありますか。皆さんを見て、自分が高校生だったときに何が好きだったのか考えました。私は数学の問題を解くことが好きでした。大学に進学する際は数学が好きだったので数学科を受けましたが不合格でした。当時はとにかく進学をしようと考え、資源工学科に合格して入学しました。卒業後は石油開発に携わる会社に就職し、そこから転勤生活が始まりました。

新潟県新潟市から始まり、これまでに11カ所の転勤がありました。最初は新潟空港の沖合で地下3000ｍから石油天然ガスを採掘する管理業に携わりました。ヘリコプターで採掘用の船へ行くと 2週間はそこに滞在します。最小限の人数で12時間ごとの交代勤務で時間外に出来ることも少ないので食事が楽しみでした。そこで4年間過ごしました。

次にインドネシアで働きました。現在は人口が2億7千万人で日本の2倍以上で宗教はイスラム教が多いです。南半球に位置するので空には南十字星が見えます。当時は衛生面が悪く、水道水は飲み水として使えませんでした。当時の職場では１人あたりに自動車が運転手付きで配属されていました。休暇になるとバリ島やシンガポールやオーストラリアへ行くことがありました。

次の転勤先はカナダで北海道よりも北なのでマイナス２０度、２５度になります。自動車が無いと生活出来ないので日本で国際運転免許証の申請をしました。現地では実技試験はなく標識等に関する学科試験のみでした。カナダは移民の国であり、様々な人種・民族の人と仕事をしました。私の部下には祖父母の時代にカナダへ移住してきた２世、３世のカナダ人が多かったです。仕事は年功序列で給料が高くなることはなく、資格や能力が重要であり、条件の良い会社が見つかれば転職し、残業はしない働き方の傾向がありました。しかし、良くも悪くも自己責任の世界でした。休暇になると夏は町内会で共有している湖で泳いだり、冬はスキーやスケートなどをしたりしました。また、暖かさを求めてカナダからカリフォルニア、ロサンゼルス、サンディエゴ、フロリダ、マイアミ、メキシコなどにも行きました。その時代の海外で働くサラリーマンの雰囲気が皆さんに伝わればと思います。私の仕事に焦点を当てると、２００８年から２０１２年まで石油採掘のための船の造船、２０１２年から２０１８年まで外航船が出入りする相馬のLNG基地建設に携わりました。

皆さんは世界の大転換期にいます。当たり前のことが当たり前ではなくなり、コロナ禍によって学校生活や色々なことが停滞しました。今後、どのような業種やどのような会社が生き残るのか、無くなる仕事もあれば、ユーチューバーのように新しく生まれる仕事もあるでしょう。それはSNSの普及によって若い人には好きなことや興味のあることを仕事にできるチャンスでもあります。少しのアイデアと勇気を出して色々なことを学び、これからの人生を楽しいものにできればと思います。最後に津軽弁で言うと「わんつか　もつけで　ちゃかしな人」の方が世の中を楽しく生きられると思います。皆さんのこれからの人生を期待しています。